



JSBMR Newsletter No. 9

日本骨代謝学会 / The Japanese Society for Bone and Mineral Research

〒612-8082 京都市伏見区両替町2-348-302 アカデミック・スクエア内

TEL: 075-468-8772 FAX: 075-468-8773 <http://jsbmr.umin.jp>

第25回日本骨代謝学会学術集会 開催案内

会 期: 2007年7月19日(木)~7月21日(土)

会 場: 大阪国際会議場

会 長: 大阪市立大学大学院医学研究科
整形外科学分野 教授 高岡 邦夫

参加費: 12,000円 (学生5,000円 … 学生証の提示が必要です)

ホームページ: <http://www2.convention.co.jp/jsbmr25/>

詳細はプログラム抄録集をご覧ください。多数のご参加をお待ちしております。

~~~~~ 2007年度の各賞が決定しました ~~~~~

5月に行われた選考委員会・理事会において、2007年度の各賞が下記のように決定いたしました。

【学術賞】

- <基礎系> 該当者なし
- <内科系> 山口 徹 (島根大学) 「骨粗鬆症の内科的側面の研究:カルシウム感受性受容体および消化器疾患・生活習慣病との関連」
- <外科系> 脇谷 滋之 (大阪市立大学) 「関節軟骨の再生」

【奨励賞】

- <基礎系> 今井 祐記 (東京大学分子細胞生物学研究所核内情報研究分野)
「エストロゲンの骨量維持機構は Fas Ligand シグナルを介した破骨細胞寿命の調節である」
納富 拓也 (大阪市立大学 大学院医学研究科分子細胞生理学)
「HCN・ペースメーカーチャネルによる骨代謝制御」
- <臨床系> 今井 一博 (東京都老人医療センター整形外科)
(内科・外科・歯科) 「CT/有限要素法は非外傷性椎体骨折の予測およびアロンドロネートの効果判定に有用である」
岡 敬之 (東京大学医学部 22世紀医療センター)
「コンピュータ支援診断システムを用いた変形性膝関節症の重症度定量化法の開発 - ROAD (research on osteoarthritis against disability) プロジェクト -」

7月21日(土)14時15分より、総会に引き続いて授賞式、学術賞受賞講演が執り行われる予定です。

2006～2007年度 日本骨代謝学会 会務報告

(2006年8月～2007年3月末)

1) 理事会

2006年度 第3回理事会議事録

日時: 2006年11月24日(金) 15:00～17:00

会場: 千里朝日阪急ビル14階 5号会議室

議事:

2005年度第2回理事会議事録の承認(松本理事長)

2005年11月23日に行われた2005年度第3回理事会議事録案について了承した。

第25回日本骨代謝学会準備状況について(小池第25回幹事) 小池幹事より第25回大会のシンポジウム、特別講演など企画内容について紹介があった。米田国際渉外委員長より、海外からの参加者を考慮して、Asian Travel Awardセッションの日にANZBMSとのジョイント企画を重ねる旨の提案があった。

演題募集については12月上旬より開始する予定であり、次号ニュースレターにて詳細を発表することが確認された。

< 報告事項 >

1. 庶務報告(滝川理事)

滝川理事より2006年10月31日現在の会員数および会費納入状況について報告があった。清野監事より、会費口数にて貢献度の高い賛助企業へはランチョンセミナーのプログラムや会場の割り振りにおいて優遇措置をとる旨の提案があり、これを承認した。

2. 会計報告(吉川理事)

2006年9月30日現在の会計中間報告について説明があった。収入については予定通りの執行率であるが、特にステロイドガイドライン転載使用料として予算を大幅に超える収入があった旨の報告があった。支出に関しては、今期後半において学術集会補助金ならびに会誌刊行費など大きな支出が控えている旨の補足説明があった。

IOF-ANZBMS Travel Award 会計についても合わせて報告があった。協賛企業8社へはAward会計収支決算報告書にお礼状を同封のうえ送付する旨を確認した。

3. 各種委員会報告

1) あり方委員会(加藤委員長)

12月16日(土)に新委員体制にて初めて委員会を開催する旨、報告があった。

2) JBMM 編集委員会(清野委員長)

投稿状況および Impact Factor について以下にて報告があった。

- ・Reject率は現在45.9%(昨年は50.3%)である。
- ・投稿数は現在国内54編、海外81編となっており、海外からの投稿が急激に増えたが、採択率については国内のほうが高くなっている。
- ・Impact factor については今年 Supplement を発行した影響で

低くなる見通しである。

なお、1月5日より電子査読を開始する旨の報告があり、現在 Associate Editor の間で試験導入を進めている旨の報告があった。基礎系の Associate Editor として新たに加藤理事を選出した旨の報告があり、理事会においても全会一致にてこれを承認した。松本理事長より Impact factor の上昇に伴い投稿数も増えるため、レビュー執筆においては JBMM 誌のレビュー引用を推奨するなど提案があった。

3) 国際渉外委員会(米田委員長)

今年初めての試みであった本会と ANZBMS とのジョイントミーティングについて、ポートダグラスにて開催され、33名の日本人発表者があり、盛況に終了した旨の報告があった。

来年度のジョイント企画では、日本で合同開催することが決定しており、JSBMR からの演者については国際渉外委員会と第25回プログラム委員会の間で討議することとした。

IBMS の会員数の割合では日本人が12%と少ないため、本会の国際的地位を上げるためにも評議員へは会員登録を呼びかける旨を確認した。

IBMS の Board member 候補者として、米田理事、加藤理事の2名を選出することについて承認した。

IBMS の2009年大会がメルボルンで開催される予定であるが、大会長より日本人参加の呼びかけのあった旨の報告があった。

4) 骨粗鬆症患者 QOL 評価検討委員会(中村委員長)

JOQOL2000 年度改訂版の信頼性および整合性について試験を重ねた結果、信頼性は良好であること、ならびに内的整合性についても問題の無い結果となった旨の発表があり、次回学術集会にて遠藤担当理事を中心に公表を予定している旨の報告があった。

今後は改訂版の使用にあたり、短縮版の作成を検討中である旨合わせて報告があった。

JOQOL の Publication については現在熊本圭吾先生が論文執筆中である旨の説明があった。

4. 学会誌掲載論文の転載許可について(事務局)

前回理事会以降に学会宛て到着した転載依頼について以下のとおり報告があり、転載許可することを了承した。

- JBMM Vol.23 No.2 pp.105-109(ステロイドガイドライン) 6,000部 ((株)サンメディア)
- 和文誌第18巻3号 pp.76-82(原発性骨粗鬆症の診断基準 2000年度改訂版) ((株)医学書院)
- 和文誌第18巻 pp.76-82(原発性骨粗鬆症の診断基準 2000年度改訂版) ((株)SAFE)
- 和文誌第14巻 p.219(原発性骨粗鬆症の診断基準) ((株)薬事日報社)
- 和文誌第14巻 p.219(原発性骨粗鬆症の診断基準) (ライフサイエンス出版(株))

和文誌第18巻3号 pp.76-82(原発性骨粗鬆症の診断基準2000年度改訂版)(ライフサイエンス出版(株))
 JBMM Vol.23 No.2 pp.105-109(ステロイドガイドライン)(ライフサイエンス出版(株))
 骨粗鬆症患者QOL評価質問表(ライフサイエンス出版(株))

ライフサイエンス出版社()からの依頼については、出版部数が14万部と膨大であることおよび他学会との兼ね合いもあり、例外としてステロイドガイドライン図版転載使用料を一律10万円としたこと、ならびにパワーポイントの使用についても一式10万円とした旨報告があった。

5. 事務局委託先の件(事務局)

松本理事長より、学会事務センター破産以降、事務局業務を受託していた(株)コネットにおいて業務の継続が極めて困難となった経緯について説明があり、新しくアカデミック・スクエア(株)に事務局を移管することについて了承した。

< 審議事項 >

1. 新評議員の推薦について(松本理事長)

赤津拓彦評議員、板橋明評議員より和田誠基先生(城西国際大学教授)の評議員推薦のあった旨松本理事長より報告があり、全会一致にて承認した。

2. 第26回日本骨代謝学会と骨粗鬆症学会との共催およびその後の合同開催について(松本理事長)

骨粗鬆症学会と本会との学会合同開催に関して、当初2008年度より3年間継続して合同で行う予定であったところ、骨粗鬆症学会より2009年度は個別で行い2010年度以降については、2008年度の状況をみたくうで判断したい旨申し出のあったことが報告された。

2008年度については両学会大会長の間で開催日程やプログラム編成など具体案をつめていく事を確認した。また、参加者よりアンケートをとり、有料入場者の内訳(各学会の割合)も踏まえて次年度以降の合同開催の意義を再度検討することとした。

2006年度 第4回理事会議事録

日時: 2007年3月1日(金) 15:00~17:00
 会場: 千里ライフサイエンスセンター5階 501会議室
 議事:

第25回日本骨代謝学会準備状況について(高岡第25回会長)
 高岡第25回会長より、特別講演、シンポジウム等の企画や、タイムテーブルについて紹介があり、主に以下の報告があった。
 ・ビスフォスフォネートupdateを従来は大会前日に開催していたが、今回は初日のミニシンポジウムの後に開催する予定である。
 ・演題募集締切は3月22日(木)となっており、学会員へ再度メール配信にて投稿の呼びかけを行う予定である。
 ・ランチョンセミナーは9社より申込があり、各日3演題ずつ開

催する予定である。

- ・今年1月よりWindows Vistaが発売されたため、新システムでのスライドが提出される可能性を考慮し、対策としてVista搭載ノートPCを準備する予定である。
- ・5月上旬には抄録の査読を終了できるよう準備中である。
 なお、海外招待講演者への謝礼金額、および抄録査読委員の選定については、大会校に一任することを確認した。野田理事より、学部学生の参加について担当教授の署名があれば無料で入場できるシステムを作ってはどうかとの提案があり、協議の結果、承認した。

第26回日本骨代謝学会準備状況について(松本第26回会長)
 松本第26回会長より、2008年度骨粗鬆症学会との合同開催の日程について以下のとおり報告があり了承した。
 2008年10月29日(水)~31日(金) 日本骨代謝学会
 2008年10月31日(金) 日本骨代謝学会、日本骨粗鬆症学会合同開催
 2008年10月31日(土)~11月2日(日) 日本骨粗鬆症学会

2007年度学術賞・奨励賞選考委員選出について

松本理事長より学術賞・奨励賞選考委員選出について、内科系、外科系、基礎系が4名ずつ構成する仕組みであることから、昨年に引き続き現理事が担当してはどうかとの提案があり、承認した。

2006年度第3回理事会議事録(案)の承認(松本理事長)

2006年11月24日に行われた2006年度第3回理事会議事録案について内容を確認し、承認した。
 なお、今回の議事録署名人は、大園理事、加藤理事が担当することとなった。

< 報告事項 >

1. 庶務報告(滝川理事)

滝川理事より2007年1月31日時点での会員数および会費納入状況について報告があった。なお、アベンティス・ファーマ(株)より退会の申し出のあった旨報告があり、了承した。

2. 会計報告(吉川理事)

2007年1月31日現在の会計中間報告について説明があった。また、年度末の支出を控えている会誌刊行費について、従来は、1-12月期にて支払を行ってきたが、科研費補助金の事業年度が4-3月期であるため、実績報告との整合性を考慮し、今後の支払計画を4-3月期に切り替える旨の提案があり、了承した。

3. 各種委員会報告

1)あり方委員会(加藤委員長)

加藤委員長より新委員の紹介があり、続いて12月16日(土)に新委員体制にて始めて開催された委員会の議事について主に以下の報告があった。
 ・学会の活性化策として、認定医制度等を導入する。

- ・ 学術集會に中期的課題の設定し、勉強型から参加型の会へ移行する。
 - ・ 学術集會の展示業者への勧誘、待遇を強化し、若手研究者の参加拡大を図る。
 - ・ 学術集會について本會と関連する臨床系学会とコラボレーションする。
 - ・ 広報委員会、国際渉外委員会活動を充実させる。
- 上記の提案を踏まえ、協議した結果、広報委員会編成の見直し、ホームページデザインの更新および展示ブースにて業者と研究者の交流の場を確保すること等を直近の課題として取り組むことを確認した。

2) JBMM 編集委員会 (松本理事長 (清野編集委員長代理))

- 松本理事長より学会誌投稿状況について主に以下の報告があった。
- ・ 投稿数は月 10~15 編のペースであったが、1 月のオンライン査読導入後、2 月迄で月約 20 編の投稿へと大幅に増加している。
 - ・ 最近の論文の Reject 率は 50% 前後となっている。
 - ・ Associate editor の質を平準化するため、今後 reject 率を editor 同士で平均化する予定である。

3) 骨粗鬆症患者 QOL 評価検討委員会 (中村委員長)

中村委員長より、QOL 評価質問表 2000 年度改訂版の妥当性についての検証が完了し、現在 8~12 の設問からなる short version の作成を検討している旨報告があった。松本理事長より、short form の作成および検証作業については、骨粗鬆症学会と共同で進めてはどうかとの提案があり、審議の結果、承認した。

4) 国際渉外委員会 (米田委員長)

米田委員長より、今年 6 月にモントリオールにて開催される IBMS にて Asian Session を行う旨の報告があり、参加の呼びかけがあった。2008 年の IOF-ANZBMS はニュージーランドで開催予定であるため、今年設置したトラベルアワードと同様のファンドを設けてはどうかとの提案があり、了承した。また、2009 年の IBMS はシドニーで開催の予定であるが、本会の参入を期待されている旨の報告があり、積極的に応じることを確認した。

5) 骨密度基準値設定委員会 (中村副委員長 (福永委員長代理))

中村副委員長より、現在、骨密度のデータ収集作業を測定器メーカーと協力の上で行っており、10 年前と現在の基準値の相違を分析している旨、進捗の報告があった。

4. 第 27 回日本骨代謝学会準備状況について

米田第 27 回会長より、2009 年度の日程について、7 月 23 日 (木)~25 日 (土) に大阪で開催予定である旨報告があった。

5. 学会誌掲載論文の転載許可について (松本理事長)

松本理事長より、前回理事会終了後より 1 月末迄に本會宛て依頼のあった学会誌掲載論文の転載許可について報告があり、何れも出典を明記するなど基準を満たしていることから、了承した。

< 審議事項 >

1. 第 26, 27 回プログラム委員会について (松本理事長)

松本理事長より、第 26 回プログラム委員編成については、本年が役員改選の年にあたるため、7 月の学術集會迄は現理事が行い、学術集會終了後は、改選を経た新理事が担当してはどうかとの提案があり、了承した。また、第 26 回が 10 月に開催されるため、第 27 回 (2009 年度) までの準備期間が大幅に短いことを考慮し、内容の重複などを避けるため第 27 回プログラム委員会を第 26 回と合同で開催することの提案があり了承した。

2. 第 9 回日本骨粗鬆症学会 (2007) とのジョイントシンポジウムについて (松本理事長)

松本理事長より、第 9 回日本骨粗鬆症学会の大内会長より本會宛て、両学会のジョイントシンポジウム開催依頼が届いた旨の報告があり、本会の担当者について協議の結果、米田俊之国際渉外委員長の推薦があり、満場一致にて承認した。

3. シュプリンガー社との著作権に関わる覚書について (松本理事長)

事務局より JBMM 誌掲載論文の和訳著作権料について、従来は依頼のあった都度出版社と学会が著作権料を決定する方式であったが、昨年 10 月に英文誌発行直後の和訳出版依頼があり、英語原著論文の販売の影響をふまえ、発行時期による著作権料の目安をシュプリンガー社と学会の間で予め決めておく必要の生じた旨、経緯の説明があり、覚書案の提示があった。

協議の結果、翻訳料の金額を以下に改定した上で、承認することとした。

- 1) 英文誌刊行 1 ヶ月以内… 和訳出版を許諾しない。
- 2) 英文誌刊行後 2~6 ヶ月以内… 著作権料を 学会へ 75 円、出版社へ 75 円として許可する。
- 3) 英文誌刊行後 7 ヶ月以降… 著作権料を 学会へ 50 円、出版社へ 50 円として許可する。
(最低限度額は 5 万円とする。)

上記は何れも全訳の場合であり、抄訳については、別途協議することとした。

4. 和文誌、抄録集のメディカルオンライン参画について (松本理事長)

松本理事長より、(株)メテオインターゲートからメディカルオンライン参画の依頼のあった旨報告があった。協議の結果、バックナンバーの電子化が実現することや、著作権の問題が特別に発生しない等の理由により、許諾することを承認した。ただし、会員へのサービスを鑑み、抄録集については毎号発行後 1 年を経過した後に電子化することを確認した。

5. 第 25 回学術集會収録・放送に関する依頼の件 (松本理事長)

高岡第 25 回会長より学術集會における収録・放送について、アキネット(株)より依頼が届いた旨の報告があった。協議の結果、本會が主導で企画立案に関与する場合以外は、一切の講演やシンポジウム等の動画配信の依頼を却下することを了承した。なお、本會活動における社会的貢献を広く認知させるため、学術集會の記録をホームページへ掲載するなど、広報活動の充実に向けて取り組むことを確認した。

2) 各種委員会報告

< 編集委員会 >

日 時: 2007年3月1日(木)13:00~14:00

場 所: 千里ライフサイエンスセンタービル501号室

清野佳紀委員長より資料に基づき説明があり、以下の事項を承認した。

I. 報告事項

1. 発行準備状況

25(1)を1月に予定どおり発行した。25(2)は3月に発行し、25(4)まで発行する準備ができています。

2006年は151編の投稿で、昨年と同じ投稿数であった。2007年よりeditorial managerを導入し、2月までに40編の投稿があった。特に海外からの投稿が増加しており、本年は240編くらいの投稿数が見込まれる。

2. 投稿状況

2007年2月28日現在、投稿数 40編
 昨年比 148.1% (うち6編 reject)
 2006年 151編
 (うち74編 reject、49.0%)

25(4)(2007年7月発行予定)は、8編の論文が採択され、シュプリンガーへ発送予定である。現在は63編が審査中である。2006年末までに却下した論文は97編で、05年は81編とおおよそ2割増加している。

過去3年の分野別推移は、基礎が全体の35%、外科が23%、内科が42%という割合で、概ね投稿されていたが、昨年は内科の投稿が増加した。

2004年 149編	国内 74編(49.6%)	海外 75編
	(基礎 55編:36.9%、外科 34編:22.8%、	
	内科 59編:39.5%、内科/基礎 1編)	
2005年 151編	国内 58編(38.1%)	海外 93編
	(基礎 52編:34.4%、外科 35編:23.1%、	
	内科 63編:41.7%、疫学 1編)	
2006年 151編	国内 64編(42.3%)	海外 87編
	(基礎 46編:30.5%、外科 26編:17.2%、	
	内科 78編:51.7%、外科/内科 1編)	

地域、国別の内訳: 日本 64編、アジア 24編、EU 31編、北米 10編、中近東 15編、ブラジル 3編、南アフリカ 1編、オセアニア 3編

アジア: 中国 14編、香港 2編、韓国 4編、タイ 2編、マレーシア 1編、インド 1編

EU: ギリシア 6編、スペイン 5編、ポーランド 4編、フランス 3編、スイス、イタリア、デンマーク、ドイツ、エストニア 2編、スロベニア、セルビア、ノルウェー 1編

中近東: トルコ 13編、イラン 2編 北米: USA 9編、カナダ 1編

共同研究: 日本+UK+中国、日本+USA+中国、イラン+ UK、スイス+ドイツ+USA、豪+香港+台湾+フィリピン+シンガポール+パキスタン+カナダ

3. Reviewの掲載状況

深川雅史氏(神戸大学、2005年学術賞)および中瀬尚長氏(大阪医療センター、2005年奨励賞)をVol.24, No. 6に掲載し、平田一成氏(長崎大学、2003年奨励賞)、Jian-min Liu氏(新

潟大学、投稿レビュー)をVol.25, No.1掲載した。2005年奨励賞佐久間真由美氏(新潟大学)をVol.25, No.3に掲載し、2006年奨励賞 与語 圭一郎氏(静岡大学)をVol.25, No.4に掲載する予定である。細井孝之氏(2002年学術賞受賞者)は投稿後、改訂中である。

学術賞、奨励賞の受賞者へ受賞式前に「レビュー執筆が義務付けられていること」の付記した案内を送付して、承知していただく旨、および海外より招聘する研究者が学術大会当日に抄録を持参してもらうことを大会事務局が確実に履行いただきたいと編集委員長は要望し、理事会で依頼することとした。

4. 表紙デザイン変更

2007年1号より前回の編集委員会で決めたデザインのとおり、表紙を改訂したが、2号では、黒い点を削除してマイナー変更を行なう予定となっている。

II. 協議事項

1. Editorial manager 導入後について

Editorial manager 開始より、1ヶ月半が経過したが、概ね良好に運営されている。編集事務局より現状について報告された。

1) 問題等問い合わせはシュプリンガー経由で、担当者より関係各署へ連絡することになっているが、大きなプログラムエラーやバージョンアップはアメリカの Editorial Manager を管理運営している Aries 社が対応し、基本的なサイトの設定や日常的な問い合わせ対応はハイデルベルクの本社の担当者が行っている。そのため、時差等ですぐに対応できないこともあるがご留意いただきたい。

2) マッキントッシュに対する Editorial Manager のシステム要件は、Macintosh: OS X, Firefox 1.0 and later, Safari 1.0 and later となっている。OS9 ユーザーのレフェリーは、可能であれば、バージョンアップしていただければありがたいとの意見があった。

3) PDF がダウンロードできないという問い合わせがあり、3日後ダウンロードができたが理由は不明であった。利用者のパソコンサーバーのキャパシティ、セキュリティの問題もある可能性があるとの意見があった。投稿後に改訂した原稿を再アップロードし、二重投稿となった例があったという報告があった。投稿後、原稿体裁等の確認を行なっているため、何か支障があった場合に記載するテクニカルチェック項目を追加したことを報告された。

4) レフェリー登録については、メールアドレスが不明な評議員が多く、返送されてきたもののいくつかは変更して再登録した。しかし、当初予定していた3分の2の登録となっているので、学会として、**メールアドレスの登録および更新するキャンペーンを行なう**ように依頼することとした。

5) エディターがレフェリーへ審査依頼をする際に送ったメールが不着の場合、事務局へ不着案内が届き、その都度事務局より Associate editor (AE)へ連絡している。事務局からエディターへ reminder を送付することになっているが report 機能が確立できておらず、今後修正していくこととする。AE から著者へのコメント欄には、自動的にレフェリー1と2のコメントが入力されており、その上部に AE から著者へのコメントを記入してもらうことを確認した。

6) レフェリーが editorial manager にコメントを日本語で記入した例の報告があり、日本語環境が同じ場合は web 内では読めるが、著者への手紙はメール送信なので、必ず文字化けするので、注意するように依頼があった。

7) Associate editors は Editor to do list を見て、審査状況を定

期的に確認することを確認した。

2. 会員外レフェリーへ謝礼

日本骨代謝学会会員ではない方に論文の査読レフェリーを依頼した場合、年に一度 1,000 円図書券をお礼として贈ることとした。海外についてはお礼の品を贈ることとする。

3. その他

JBMM はインパクト指数を上げ、質のよい学術誌を目指しているため、エディター間の審査の標準化をする必要があるのではないかという意見があがった。

また、採択論文がやや不足気味なので、学術的にタイムリーなレビューを掲載できればしたいとの意見が上がり、本誌の質の向上にもなるので、できるだけ掲載するようにすることとした。

なお、委員長は、一度審査して改訂するように著者へコメントした後、著者がきっちり改訂しなかった場合もあるかもしれないが、時間が経過して「却下」することをなるべく避けていたきたいと要望した。

JBMM 発行後すぐに日本語の抄録を作成することを許可しないで、2ヶ月後以降に許可することおよび抄録の金額を理事会で決める予定である。

< 骨粗鬆症患者 QOL 評価検討委員会 >

日 時： 2006 年 10 月 13 日(金) 7:30 ~ 8:00

会 場： 京王プラザホテル 南館 10 階 会議室 (NO. 1059)
〒160-8330 東京都新宿区西新宿 2-2-1

議 事:

骨粗鬆症患者 QOL (JOQOL) 2000 年度版
短縮版作成 経過報告

先回議事の課題となっていた、JOQOL 短縮版作成を検討するにあたり、熊本先生より経過報告があった。

項目選択の基準としては、各項目の回答分布を再度検討し、偏りの著しいものを確認した。ドメインごとに因子分析を行い、原則として因子負荷の高い項目から用いる。の2点の方向性にて進めた結果、以下にて項目の選択を試み、いずれの短縮版を採用しても概ね妥当な結果が得られると考えられる旨、報告があった。

- ・各因子から2項目ずつ(のみ1項目ずつ)選択する「14項目版」
- ・各ドメインから第1因子のみを選択する「11項目(6因子)版」
- ・「6因子版」から 総合健康を省いた「9項目(5因子)版」
- ・「6因子版」から 総合健康・ 娯楽社会を省いた「8項目(4因子)版」
- ・「9項目版」の Q18 歩行を Q16 量に入れ替えた「9項目(量)版」

中村委員長より、短縮版になった場合に、ADL10項目にかなり近い性質になるため、各質問項目の好き嫌いなどから相違点を出していくなど、検定作業が必要である旨、意見があり承認された。また、骨粗鬆症に特異的な障害を示すことが難しいため、短縮版の妥当性をどこまで検証するかについて、今後の課題とすることが確認された。

今回の委員会までに、JOQOL フルセット版より短縮版の項目選択について各委員が検討することが確認された。

遠藤担当理事より、次回学術集会にて JOQOL2000 年度版は尺度として必要最小限の信頼性と妥当性が確認された旨、骨代謝学会より公表することにて提案があり、承認された。

< 骨密度基準値設定委員会 >

日 時： 平成 18 年 7 月 7 日(日)16:00 ~ 17:00

会 場： T F Tホール 東館9階会議室9C

議 事:

1. 前回第 2 回委員会議事録の確認

・YAM 値の決め方について、藤原委員より、2005 年のISC D の出しているガイドラインによると、20 歳 ~ 29 歳に限定の記述のある旨説明があった。

・IRB 委員会の承認について

福永委員長より、6 月 19 日の川崎医科大学倫理委員会において、研究計画書が承認された旨、報告があった。

・次回委員会より、データ解析に関わってもらうため、曽根照喜先生(川崎医科大学放射線内科学講座助教授)も新委員として加わることが確認された。

2. データ収集について

藤原委員よりデータシート(案)について、説明があった。

・入力方法は、エクセルでとあるが、きちんとした形であればテキストファイルも可能である旨、補足説明があった。

・個人情報保護の観点からデータ提出の際には氏名を削除し、通し番号により管理する事が確認された。

・同じ被験者で検査日の異なる重複例を除外してリストを作成することが確認された。

3. 入力シートの詳細について

・データクリーニングに確認作業が発生するため、連絡先電話番号、メールアドレスを提出する。

・測定装置、測定部位コードについて、以下の案にて承認された。

・年齢は測定日の年齢とする旨補足説明があった。

・測定部位コードは、腰椎(L1 - 4)、腰椎(L2 - 4)、大腿骨頸部、大腿骨近位 Total、橈骨、中手骨

・症例は、18 歳以上の男女、2004 ~ 2006 年度のデータを採取することとし、20 ~ 30 歳のデータをできるだけ多く集めることが確認された。

4. 今後のスケジュールについて

来年の学術集会で発表することを目標として、以下の予定で進めていくこととなった。

2007 年 2 月末 データ収集終了、解析作業開始

2007 年 6 月 委員会開催

2007 年 7 月 骨代謝学会にて報告、発表

<あり方委員会>

日 時: 2006年12月16日(土) 12:00~14:00
 会 場: 千里朝日阪急ビル 14階 6号会議室
 議 事:
 加藤委員長より過去5年間のあり方委員会議事について報告があった。
 学会発展のための長期展望について協議の結果、主に以下の具体策、改良策について協議した。

1. 学会会員の獲得方法について
2. 年会の活性化方法について
3. 学会としての社会的学術的連携について

今後の学会予定

第25回日本骨代謝学会

会 期: 2007年7月19日(木)~21日(土)
 会 場: 大阪国際会議場
 会 長: 高岡 邦夫(大阪市立大学)

第26回日本骨代謝学会(骨粗鬆症学会との合同開催)

会 期:
 2008年10月29日(水)~31日(金) 日本骨代謝学会
 2008年10月31日(金)
 日本骨代謝学会・日本骨粗鬆症学会合同開催
 2008年10月31日(金)~11月2日(日)
 日本骨粗鬆症学会

会 場: 大阪国際会議場
 会 長: 松本 俊夫(日本骨代謝学会)
 高岡 邦夫(日本骨粗鬆症学会)

関連学会の大会開催予定

第10回癌と骨病変研究会

会 期: 2007年11月17日(土)
 会 場: 癌研有明病院 吉田講堂・セミナー室
 (東京都江東区有明3-10-6)
 代 表: 松本 俊夫(徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス
 研究部生体情報内科学)
 演題募集締切: 平成19年8月31日(金)
 募集要項は、ホームページをご参照ください。
 研究会 URL: <http://www.sec-information.net/jscbd/index.html>
 事務局: 株式会社グラフィティ内
 〒107-0052 東京都港区赤坂2-20-2 ベル赤坂1階
 TEL:03-3583-1745 FAX:03-3583-1741
 E-mail: jscbd@graffiti97.co.jp

第28回日本骨形態計測学会

会 期: 2008年7月25日(金)~27日(日)
 会 場: シェーンパッサ砂防
 (東京都千代田区平河町2-7-5)
 代 表: 野田 政樹(東京医科歯科大学難治疾患研究所)

分子薬理学)

テーマ: 骨の形と機能に対する疾患分子的アプローチ
 演題募集締切: 2008年3月15日
 募集要項は、学会ホームページをご参照ください。
<http://www.e-jsbm.com/index.html>

The 17th Scientific Meeting of the IBMS

Date: June 24-29, 2007
 Venue: Montreal Convention Center (Montreal, Canada)
 Local Chair: Francis Glorieux, (Canada)
 Scientific Program Chair: Socrates Papapoulos, The Netherlands
 Homepage URL: <http://www.ibms2007.com/>

The 2008 IOF World Congress on Osteoporosis

Date: December 3-7, 2008
 Venue: the Queen Sirikit National Convention Center (Bangkok, Thailand)
 Submission deadline: June 2, 2008
 Congress President: Pierre D. Delmas (France)
 Homepage URL:
<http://www.iofbonehealth.org/wco/2008/homepage.html>

IBMS への入会のご案内

The International Bone and Mineral Society (IBMS)は世界64カ国に会員約2,500名を有する世界最大規模の骨代謝分野の国際学会です。IBMSは日本骨代謝学会、European Calcified Tissue Society (ECTS) および The American Society for Bone and Mineral Research (ASBMR)と2年に1度 Joint Meeting を開催し、各地域における研究の発展に尽力しています。

2003年6月には日本骨代謝学会との初めての Joint Meeting が大阪で開催されました。今後より一層 IBMS との関係をより深めつつ、相互の会員の利益になるため会員の皆様には、ぜひ IBMS へ入会くださいますよう、ご案内申し上げます。

詳しい情報ならびにお申込につきましては、IBMS ホームページ <http://www.ibmsonline.org/membership> のページより、ご査収ください。

日本骨代謝学会は、運動器の10年日本委員会に加盟しています。



「運動器の10年」世界運動

メールアドレスご登録のお願い

本会では、会員様へのご連絡などをより円滑に行うため、メールアドレスのご登録を呼びかけたいしております。メールアドレスを事務局宛て、下記の要項にて、FAX またはメールにてお知らせください。

ご登録いただいた方へは、ニュースレターや、その他国際骨代謝学会の情報など、メールにていち早くご提供させていただきます。ご協力のほど、何卒よろしく願いいたします。

メールアドレスご登録 送信先: (FAX) 075 - 468 - 8773

ご芳名 :

ご登録メールアドレス :

* なお、個人情報保護に関する関係法令に基づき、本会はすでにお預かりしている住所などの情報と同様、メールアドレスにおきましても、学会の活動や運営上必要な事務連絡以外の目的で使用することはありません。